



日本三薬師の一つ、
医王寺。
その甘露水は
甘くて旨い。



奈良時代に山中温泉を発見した行基は、山中温泉を見下ろす水無山の山麓に国分寺を建立し、薬師の尊像を安置したと伝えられている。その後、兵乱で温泉は一時廃れたが、文治年間(1185~1190年)に能登の地頭長谷部信連が温泉を再興、行基の作と言われる薬師如来像を掘り出し、国分山医王寺を創建した。医王寺は、京都の蛸薬師、出雲の一畑薬師と並び日本三薬師の一つとされ、地元でお薬師さんとして親しまれている。

女将さんは「一度にたくさんお祈りしたらいけないのよね。一つだけ」とお薬師さんに手を合わせる。

この医王寺の裏山から湧く霊泉、甘露水は超軟水で、その名のとおり、甘味を感じるまるい味がする名水。「薬水不盡」の薬効の水としても名高い。また「獅子の里」で有名な地元の松浦酒造が仕込み水としてこの水を使っていることから、この水の美味しさがわかったと言っている。

秋 の 山 中 温 泉

女将 と 歩 く

写真・文 タカヤチヤユタカ
一緒に歩いた人 吉本加代子 お花見久兵衛 女将

「忘れしやんすな山中道を東や
松山 西や薬師」と山中節で唄わ
れる、地元でお薬師さんと親しま
れる国分山医王寺の前に架かる
薬師橋から望む山中温泉の町並み。
山中温泉は文字通り山に囲まれ、
大聖寺川の渓谷を挟んで川沿い
に多くの温泉旅館が立ち並び、両
側から迫り来るよう山並みと川
が織なす深谷がこの町に深みと
奥行きを、そして歩く者に視覚の
変化を与えてくれる。

その山中温泉を、お花見久兵衛
の女将、吉本加代子さんと歩いた。

医王寺の前からの山中温泉の町並み